

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3893600027
法人名	株式会社フォースコーポレーション
事業所名	グループホームゆうなぎ
所在地	愛媛県喜多郡内子町城廻613-1番地
自己評価作成日	平成24年8月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成24 年 10 月 4 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・日頃もゆったりと過ごす時間を大切にしているが、週に1回は午後おやつ作り、買い物、外出を行ない楽しんで頂けるように取り組んでいる。食事のメニューも多く旬の野菜を多く摂って頂いている。主治医、看護師との連携を図り、健康管理面には十分配慮している。歩行可能な方は、本人が過したいように自由に過ごして頂いている。併設にデイサービスがある為、行事毎には、交流を行ない、コミュニケーションが図れるように支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者をはじめ職員は、利用者に笑顔で優しく声かけを行う基本姿勢を大切にし、ケアの実践に取り組んでいる。利用者のプライドを傷つけないように配慮し、笑顔が見られるよう心がけている。忙しい中でも利用者一人ひとりとの関わりを大切にし、利用者を思う気持ちが伝わってくる。管理者は職員とのコミュニケーションを心がけ信頼関係を深めており、職員同士も良好なチームワークでお互いフォローしあいながらケアに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
(評価項目の構成)

Ⅰ.理念に基づく運営

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

Ⅳ.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム ゆうなぎ

(ユニット名) 南 棟

記入者(管理者)

氏 名 緒方 久美子

評価完了日 平成 24 年 8 月 10 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 理念、行動目標を作っており、定期的に見直しを行い、目標に添って実践に繋げている。毎朝、朝礼で復唱を行っている。廊下等、各部所、目につく所に提示している。	
			(外部評価) 職員で話し合って作成された理念で、開設以来3回の見直しがされている。行動指針も立てられ、毎日朝礼で唱和し確認を行っている。さらに職員一人ひとりが個人目標をたて、よりよいケアが実践できるよう努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 自治会に入っており、地域の行事にも出来るだけ参加するようにしている。保育所との交流、地域サロンとの交流もほぼ毎月行い交流を図っている。ゆうなぎの行事についても地域の方に参加して頂いている。ホームの周りが、地域の方の散歩コースとなっており、挨拶を交わしたり、野菜を持って来て頂くこともある。	
			(外部評価) 自治会に入会しており、回覧板で地域の情報を得ている。すぐ隣に保育園があり、園の誕生会や運動会など行事にも参加している。また、地域のサロンとの交流もあり、地域住民に利用者に関わりを持ってもらうことで、認知症への理解が深まっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 内子町内のグループホームと連携を図り、年1回認知症講演会を行っている。多数参加があり、良かったという意見があった。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 定期的に会議を行い、利用者の状況、現状を報告して いる。外部評価後は結果を報告し、出された意見は サービス向上に活かしている。ゆうなぎ行事（講演 会、運動会、ゆうなぎ祭り、避難訓練等）を利用し、 会議を行っている。	
			(外部評価) 運営推進会議では、事業所の報告や課題について意見 交換が行われている。参加者の民生委員や地域の方は 地域サロンでも交流があり、活発に意見が出されてい る。会議に合わせて、認知症への理解を深めるための 講演も行っている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 必要に応じて市町村との連携を図っている。推進会 議、内子町グループホーム連絡会に参加して頂いてい る。入居者の入退居時、更新時、介護計画書等を提出 し、情報を提供している。	
			(外部評価) 運営推進会議に町の担当者に出席してもらっている。 日頃から、利用者の相談をし、連絡を密に取ってい る。地域包括支援センターとも利用者の相談等を日常 的に行っており、良好な関係が築かれている。同町で は介護相談員派遣事業がまだ実施されていないが、管 理者は介護相談員の受入れを希望している。	介護相談員の受入れが利用者へのよりよい支援につな がり、事業所全体のサービスが向上することに期待し たい。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 研修に参加し、職員会、カンファレンスで報告、勉強 会を行っている。入居者の方が自由に生活出来るよう 環境を整えている。日頃より拘束をしないよう取り組 み、話し合いを行っている。	
			(外部評価) 職員が身体拘束にあたる行為や弊害について理解し、 拘束のないケアを実施している。玄関の施錠も日中は しておらず利用者の人権を守りながら、自由でのびや かな暮らしができるよう支援している。言葉での拘束 についても職員で意識しながら対応に努めている。研 修も積極的に参加し職員同士で情報共有している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 職員会で勉強会を行い、入居者に対しての言葉遣いや介護態度についての話し合いを行っている。小さな内出血、アザなど、ヒアリハットを提出し、全員で話し合い、改善に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修会に参加し、勉強会を行っている。家族からの要請がある時は管理者が対応している。今後必要時は、関係機関との連携を図っていきたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には契約書の説明を行っている。事業所のケアに関する事、利用料金、起こりうるリスク、看取りに関する事、医療連携体制についても説明を行い、同意を得ている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族の面会時に意見、要望を聴くようにしている。家族会を行い、意見を出して頂いたり、推進会に家族代表で参加して頂き、意見、要望を聴いている。	
			(外部評価) 家族の面会時に意見を聞き取ったり、遠方の家族には事業所での様子が分かるよう「ゆうなぎ通信」と手紙を送り、意見や要望が言いやすい工夫をしている。出された意見や要望は職員で検討し、運営に反映している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 代表者は入居者、職員と交わる機会が少ない為、管理者を通して職員の意見や、提案、要望を伝えるようにしている。 (外部評価) 管理者は日頃よりケアに携わっており、職員とのコミュニケーションもよくとれている。事業所の改善点などについては、定期的に話し合いが持たれ、必要に応じて管理者から代表者に伝わる仕組みになっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者は現場に来る機会が少ないため、職員個々の努力や実績は分からないと思う。希望休、時間外、有給休暇の支給はある。休憩の時間も取れるように整えている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 職員の力量に応じて、研修を受講できるようにしている。資格取得のための支援もしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 代表者は機会が少ないが、管理者、職員は交流の機会があり、勉強会、運動会、グループホーム連絡会に参加し、意見交換を図っている。他の市町村の同業者との連絡を行い、情報交換を行っている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入所前には、自宅、病院等に事前調査に行き、面接を行っている。本人の生活状況、身体状況、服薬、家族関係などを聴きとり、出来る範囲で情報を得ている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等 が困っていること、不安なこと、要望等に 耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前には本人、家族の思いが分かるようにセンター 方式のアセスメントを渡し、記入して頂く。記入でき ない家族には、聞き取りを行い、本人、家族の要望を 聴いている。職員にも情報を伝え、事前に話し合っ ている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と 家族等が「その時」まず必要としている支 援を見極め、他のサービス利用も含めた対 応に努めている	(自己評価) 家族や居宅のケアマネからの情報を聴いたり、本人、 家族の思いを聴き、必要なサービスに繋げるようにし ている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にお かず、暮らしを共にする者同士の関係を築 いている	(自己評価) 「笑顔で穏やかな暮らし」を理念にし、入居者のペー ス、状態に合わせ、出来る事、好きなことを把握しな がら、日々関わりを持つようにしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にお かず、本人と家族の絆を大切にしながら、 共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時には、居室や別室でゆっくりお話しできるよ うにしたり、本人の状況を伝えたり、介護記録を見て頂 いている。毎月お便りを書き、状況をお伝えしてい る。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人 や場所との関係が途切れないよう、支援に 努めている	(自己評価) 親戚、知人の面会など、自由に出来るようにしてい る。馴染みの美容室に行かれたり、自宅に帰り過ぎ たり、敬老会に参加される機会もある。 (外部評価) 馴染みの美容室に行ったり、お墓参りに行くなど今ま での馴染みの人や場所を大事にし継続できるよう工夫 している。家に帰りたい利用者には、家族の協力を得 て自宅でくつろいだり、食事ができるよう支援してい る。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の顔なじみの関係は出来ており、仲良く自由に過ごされている。個人の性格を考慮し、利用者同士の関係がうまくいくように職員が調整役となっている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 必要に応じて相談があれば家族に連絡している。年賀状、暑中見舞い、行事の招待状を送っている。推進委員の協力をお願いし、継続して参加して頂ける方もある。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) センター方式の「私の姿と気持ちシート」を採用し、本人の思い、不安、苦痛、願い事を聴きとり、記入し、本人の思いを知ろうとしている。意思疎通困難な方は、職員本意にならないように努めて対応している。	
			(外部評価) 入居の際、利用者や家族に思いや意向を聞いている。「私の姿と気持ちシート」に記録することで、利用者の思いを職員間で共有できるよう工夫がされている。日々のかかわりの中でゆっくり声をかけ、表情をうかがいながら思いや意向の把握に努めており、利用者の思いを尊重する姿勢がうかがえる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所前に本人の生活状況を家族に聴いたり、センター方式、ケアマネより情報収集している。自分のこれまでの馴染みの物は自由に持ち込まれている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 個々の生活リズムを把握し、気付きノート、申し送りノートを採用し、健康で安全な生活が出来るように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人、家族に思いや意見を聞いている。定期的にカンファレンスを行い、思いを取り入れている。更新時期には面談を行い、意見を聴き、計画を作成している。 (外部評価) 担当者が中心となり、職員で話し合って作成された介護計画を管理者が確認している。毎月モニタリングを行い見直しをしている。利用者と家族の意見や要望を大切にし、介護計画がよりよいものになるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 毎月、計画書に添った介護記録を個別に取り、生活様子、健康状態、本人の言葉、エピソード等を記録している。定期的（3カ月毎・入院時には）介護計画の見直しを行っている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 必要に応じて通院、リハビリ、マッサージ、送迎など柔軟に対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域の区長さん、民生委員、地域のサロンとの交流したり、意見を交換する機会を設けている。地域の図書館で紙芝居や絵本を借りて、読み聞かせなどして楽しんで頂いている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) かかりつけ医はあるが、病状に応じた専門病院を受診 している。また、家族の希望する病院を受診してい る。	
			(外部評価) かかりつけ医や希望する病院に受診ができるよう支援 している。受診には職員が同行するが、必要に応じて 家族にも協力してもらっている。協力医が月1回往診を 行い、利用者の健康管理をしている。必要に応じて看 護師の訪問もあり、利用者への適切な支援が行われて いる。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 協力医療機関の看護師より毎週健康チェックを受け、 必要な注射、血糖測定、点滴を受けている。体調変化 (状態) を伝え、指示を受け対応している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時には病院に情報提供を行っている。面会にも行 き、本人の状態を見て職員に伝えている。退院後、医 療機関での情報提供を行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 契約時に施設の方針を説明し、同意を得ているが、重 度化した場合は、再度本人、家族、医師、看護師、職 員が連携を図り、安心して終末期を迎えられるよう話 し合いを行い取り組んでいる。	
			(外部評価) 終末期の対応については、入居の際に利用者と家族に 説明し意向を聞いている。状態の変化に応じて確認を 取り、利用者や家族の思いを重視している。医療の対 応についても、家族と連携を図りながら慎重に取り組 んでいる。研修等にも参加し知識を高めるよう努力し ている。	新人職員や若い職員が不安をもたないよう、終末期の 支援のあり方や対応方針について、職員で確認し合っ て共有し、よりよいケアが行われることに期待した い。

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 年1回、全職員が救命救急法を受講している。緊急時マニュアル、連絡網を作成し、対応できるようにしている。消防署による応急手当研修会にも参加して、身に付けている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的に防災訓練を実施して、地域の方、消防署、推進員との訓練を行い協力体制を築いている。昼夜を問わず施設内の点検を行っている。全職員で訓練し周知徹底を図っている。 (外部評価) 消防署の協力を得て年2回、避難訓練を行っている。日頃より、防災チェック表を用いて2時間に1回火の元の安全を確認するなど、職員が防火意識を持つように努めている。非常時の食料やテント、コンロ等も常備しており、スプリンクラーも設置している。町内グループホームで協力体制について話し合いがされている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人一人の人格を尊重し、プライドを傷つけないような言葉かけ、対応をしている。理念にある「利用者に笑顔で接し、やさしい声かけで介護をする」という行動目標を念頭に支援している。 (外部評価) 利用者との日常のかかわりの中で、職員は優しい言葉かけを念頭におき対応している。特に排泄や入浴時にはプライバシーに配慮し、一人ひとりの人格を尊重しながらケアに取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者に合わせて声かけをし、無理強いせず自己決定出来るよう、声かけ、支援している。難聴の方はボードを使用し、本人のに決めて頂いている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一日の流れは決まっているが、一人一人の体調に配慮しながら本人の気持ちを尋ねたり、相談しながら過ごして頂いている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 行きつけの美容室に行かれ、パーマや毛染めをされている。行かない方はホームで行っている。洋服は、自分で決められる方は決めて頂いている。たまに化粧され、おしゃれをされる方もある。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 職員と入居者が同じテーブルを囲んで話をしながら食事をしている（介助の方も）。畑で収穫できた野菜を食べたり、誕生日には本人の好きな食事を出している。外食時など好きなメニューを決めて頂いている。出来る方は食事準備、片づけを手伝って頂いている。 (外部評価) 利用者の希望や好みを取り入れた献立にしている。職員と利用者が、同じテーブルを囲んで楽しく食事ができるよう雰囲気づくりを大切にしている。支援の必要な利用者には職員が横にさりげなく座り、優しく声かけしながら介助している。外食をすることもあり利用者は楽しみにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 各自の健康状態を考慮して食事量、薄味（減塩）、刻み食、お粥、トロミ（水分）を使い工夫している。一人一人の摂取量（食事、水分）は、記録している。本人の好きな物、嫌いな物、習慣で摂られていたものを配慮し、個別に対応している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、口腔ケアを行い、本人の能力に応じて介助している。歯間ブラシ、スポンジなど個人に合わせて使用している。週1回ポリデントを使用している。夜間時、義歯は外して休んで頂いている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 日中はトイレに排泄を促す事を基本としている。トイレでの排泄を大切にしながら、紙パンツ、尿取りなど、本人に合わせて使用している。排泄チェック表を利用し尿意のない利用者にも時間をみて誘導する事により、トイレで排泄出来るよう、支援している。夜間時は、必要に応じてポータブル、トイレ誘導、尿取り交換を行っている。 (外部評価) 日中は基本的にトイレで排泄できるよう支援している。利用者の様子から敏感に察知し、さりげなくトイレ誘導を行っている。状態に応じて、排泄の支援方法を家族に相談している。トイレには転倒防止や立ち上がり動作がしやすいように適切な手すりを取り付けられ、安全に配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 自然排泄が出来るように、乳製品、食物繊維の物を摂ったり、体操、腹部マッサージ、散歩を行っている。排泄困難な方は主治医に相談している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 本人の希望を聴き、入浴されている。一人ずつゆっくり入浴されている。仲の良い方で一緒に入浴される事もある。 (外部評価) 決まった入浴日はなく、利用者の希望に応じ毎日入浴できるように支援している。入浴の苦手な利用者には声かけやタイミングを工夫して、楽しく入浴できるように努めている。同性介護に配慮し、心地よい入浴ができるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えている。夜間時、不眠の時は、日中休んで頂くこともあるが、ゆっくり休息が取れるように支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 各自の薬の処方箋があり、関連や副作用を理解している。いつでも職員が確認できるようにしており、病状変化があった場合は、主治医に相談している。薬の変更時は申し送りノートに記入し共有している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一人一人に応じて、趣味活動、料理のお手伝いをして頂いたり、ゲーム、歌を唄ったり、DVD鑑賞して日中楽しく過ごして頂いている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 家族の協力を得て外出される方もある。ドライブ、お花見、外食、買物に行かれている。ボランティアの協力で笹祭り見学に行かれている。	
			(外部評価) 利用者が外出により気分転換できるよう、地域の行事やイベントにできるだけ参加している。利用者の希望を取り入れたドライブや買い物等の外出を支援している。職員の家族がボランティアで外出の手伝いをすることもあり、利用者に喜ばれている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ほとんどの方は管理できなくなっているが、管理できる方は自分で所持されている。職員に買物を頼まれたり、買物に行かれ支払される方もある。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 年賀状、暑中見舞いなどを用意し、一言書かれる方もある。出来る方は自分で手紙を書いたり、電話をかけたりされる方もある。(番号は職員が押してあげる)	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 食堂内の壁には季節に応じた飾付けや写真を飾っている。季節の花を飾ることもある。玄関先には、季節の花、野菜を植えたり、花を飾っている。場所が分かるように大きな字で表示をしている。 (外部評価) 落ち着いた雰囲気のあるリビングのソファで、利用者はゆっくり寛ぐことができる。家庭的な温もりを感じる食堂のテーブルには、庭で摘んだ花が飾られている。リビングからキッチンへの動線の設計が工夫されており、利用者は自然な流れで職員の手伝いを行うことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 廊下、玄関先、いろいろな場所に椅子、ソファを置いている。食堂内は少し狭いが、皆が座れるようにソファを置いており、お話しできるように配慮している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室には馴染みの家具、テレビ、ラジオ、コタツ、タンスを持ちこまれている方もある。花を活けたり、観葉植物を置かれ、お世話されている。家族の写真を飾られていたり、家族が身近に感じられるようにされている。 (外部評価) 居室には、ベッドやエアコン、洗面台が設置されている。使い慣れた馴染みのものが持ち込まれ、家族との思い出の写真や花が飾られており、利用者が落ち着いて生活できる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 各自に応じて、老人車、杖、車椅子、歩行器を使用されている。身体状況に応じて、ベッドの向きやポータの設置場所を考えている。転倒防止のため、床で休んで頂く方もある。2階への移動はエレベータを使用されている。自力で移動できるよう、段差をなくし、手すりを設置している。食堂内の移動も物をつたいながら移動してもらっている。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3893600027
法人名	株式会社フォースコーポレーション
事業所名	グループホームゆうなぎ
所在地	愛媛県喜多郡内子町城廻613-1番地
自己評価作成日	平成24年8月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成24 年 10 月 4 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・日頃もゆったりと過ごす時間を大切にしているが、週に1回は午後おやつ作り、買い物、外出を行ない楽しんで頂けるように取り組んでいる。食事のメニューも多く旬の野菜を多く摂って頂いている。主治医、看護師との連携を図り、健康管理面には十分配慮している。歩行可能な方は、本人が過したいように自由に過ごして頂いている。併設にデイサービスがある為、行事毎には、交流を行ない、コミュニケーションが図れるように支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者をはじめ職員は、利用者に笑顔で優しく声かけを行う基本姿勢を大切にし、ケアの実践に取り組んでいる。利用者のプライドを傷つけないように配慮し、笑顔が見られるよう心がけている。忙しい中にも利用者一人ひとりとの関わりを大切にし、利用者を思う気持ちが伝わってくる。管理者は職員とのコミュニケーションを心がけ信頼関係を深めており、職員同士も良好なチームワークでお互いフォローしあいながらケアに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
(評価項目の構成)

Ⅰ.理念に基づく運営

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

Ⅳ.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームゆうなぎ

(ユニット名) 北棟

記入者(管理者)

氏 名 緒方 久美子

評価完了日 平成24 年 8 月 10 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 理念、行動目標を作っており、定期的に見直しを行い、目標に添って実践に繋げている。毎朝、朝礼で復唱を行っている。廊下等、各部所、目につく所に提示している。 (外部評価) 職員で話し合って作成された理念で、開設以来3回の見直しがされている。行動指針も立てられ、毎日朝礼で唱和し確認を行っている。さらに職員一人ひとりが個人目標をたて、よりよいケアが実践できるよう努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 自治会に入っており、地域の行事にも出来るだけ参加するようにしている。保育所との交流、地域サロンとの交流もほぼ毎月行い交流を図っている。ゆうなぎの行事についても地域の方に参加して頂いている。ホームの周りが、地域の方の散歩コースとなっており、挨拶を交わしたり、野菜を持って来て頂くこともある。 (外部評価) 自治会に入会しており、回覧板で地域の情報を得ている。すぐ隣に保育園があり、園の誕生会や運動会など行事にも参加している。また、地域のサロンとの交流もあり、地域住民に利用者と関わりを持ってもらうことで、認知症への理解が深まっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 内子町内のグループホームと連携を図り、年1回認知症講演会を行っている。多数参加があり、良かったという意見があった。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 定期的に会議を行い、利用者の状況、現状を報告して いる。外部評価後は結果を報告し、出された意見は サービス向上に活かしている。ゆうなぎ行事（講演 会、運動会、ゆうなぎ祭り、避難訓練等）を利用し、 会議を行っている。	
			(外部評価) 運営推進会議では、事業所の報告や課題について意見 交換が行われている。参加者の民生委員や地域の方は 地域サロンでも交流があり、活発に意見が出されてい る。会議に合わせて、認知症への理解を深めるための 講演も行っている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 必要に応じて市町村との連携を図っている。推進会 議、内子町グループホーム連絡会に参加して頂いてい る。入居者の入退居時、更新時、介護計画書等を提出 し、情報を提供している。	
			(外部評価) 運営推進会議に町の担当者に出席してもらっている。 日頃から、利用者の相談をし、連絡を密に取ってい る。地域包括支援センターとも利用者の相談等を日常 的に行っており、良好な関係が築かれている。同町で は介護相談員派遣事業がまだ実施されていないが、管 理者は介護相談員の受入れを希望している。	介護相談員の受入れが利用者へのよりよい支援につな がり、事業所全体のサービスが向上することに期待し たい。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 研修に参加し、職員会、カンファレンスで報告、勉強 会を行っている。入居者の方が自由に生活出来るよう 環境を整えている。日頃より拘束をしないよう取り組 み、話し合いを行っている。	
			(外部評価) 職員が身体拘束にあたる行為や弊害について理解し、 拘束のないケアを実施している。玄関の施錠も日中は しておらず利用者の人権を守りながら、自由でのびや かな暮らしができるよう支援している。言葉での拘束 についても職員で意識しながら対応に努めている。研 修も積極的に参加し職員同士で情報共有している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 職員会で勉強会を行い、入居者に対しての言葉遣いや介護態度についての話し合いを行っている。小さな内出血、アザなど、ヒアリハットを提出し、全員で話し合い、改善に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修会に参加し、勉強会を行っている。家族からの要請がある時は管理者が対応している。今後必要時は、関係機関との連携を図っていききたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には契約書の説明を行っている。事業所のケアに関する事、利用料金、起こりうるリスク、看取りに関する事、医療連携体制についても説明を行い、同意を得ている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族の面会時に意見、要望を聴くようにしている。家族会を行い、意見を出して頂いたり、推進会に家族代表で参加して頂き、意見、要望を聴いている。	
			(外部評価) 家族の面会時に意見を聞き取ったり、遠方の家族には事業所での様子が分かるよう「ゆうなぎ通信」と手紙を送り、意見や要望が言いやすい工夫をしている。出された意見や要望は職員で検討し、運営に反映している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 代表者は入居者、職員と交わる機会が少ない為、管理者を通して職員の意見や、提案、要望を伝えるようにしている。 (外部評価) 管理者は日頃よりケアに携わっており、職員とのコミュニケーションもよくとれている。事業所の改善点などについては、定期的に話し合いが持たれ、必要に応じて管理者から代表者に伝わる仕組みになっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者は現場に来る機会が少ないため、職員個々の努力や実績は分らないと思う。希望休、時間外、有給休暇の支給はある。休憩の時間も取れるように整えている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 職員の力量に応じて、研修を受講できるようにしている。資格取得のための支援もしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 代表者は機会が少ないが、管理者、職員は交流の機会があり、勉強会、運動会、グループホーム連絡会に参加し、意見交換を図っている。他の市町村の同業者との連絡を行い、情報交換を行っている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入所前には、自宅、病院等に事前調査に行き、面接を行っている。本人の生活状況、身体状況、服薬、家族関係などを聴きとり、出来る範囲で情報を得ている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等 が困っていること、不安なこと、要望等に 耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前には本人、家族の思いが分かるようにセンター 方式のアセスメントを渡し、記入して頂く。記入でき ない家族には、聞き取りを行い、本人、家族の要望を 聴いている。職員にも情報を伝え、事前に話し合っ ている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と 家族等が「その時」まず必要としている支 援を見極め、他のサービス利用も含めた対 応に努めている	(自己評価) 家族や居宅のケアマネからの情報を聴いたり、本人、 家族の思いを聴き、必要なサービスに繋げるようにし ている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にお かず、暮らしを共にする者同士の関係を築 いている	(自己評価) 「笑顔で穏やかな暮らし」を理念にし、入居者のペー ス、状態に合わせ、出来る事、好きなことを把握しな がら、日々関わりを持つようにしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にお かず、本人と家族の絆を大切にしながら、 共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時には、居室や別室でゆっくりお話しできるよう にしたり、本人の状況を伝えたり、介護記録を見て頂 いている。毎月お便りを書き、状況をお伝えしてい る。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人 や場所との関係が途切れないよう、支援に 努めている	(自己評価) 親戚、知人の面会など、自由に出来るようにしてい る。馴染みの美容室に行かれたり、自宅に帰り過ぎ たり、敬老会に参加される機会もある。 (外部評価) 馴染みの美容室に行ったり、お墓参りに行くなど今ま での馴染みの人や場所を大事にし継続できるよう工夫 している。家に帰りたい利用者には、家族の協力を得 て自宅でくつろいだり、食事ができるよう支援してい る。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の顔なじみの関係は出来ており、仲良く自由に過ごされている。個人の性格を考慮し、利用者同士の関係がうまくいくように職員が調整役となっている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 必要に応じて相談があれば家族に連絡している。年賀状、暑中見舞い、行事の招待状を送っている。推進委員の協力をお願いし、継続して参加して頂ける方もある。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) センター方式の「私の姿と気持ちシート」を採用し、本人の思い、不安、苦痛、願い事を聴きとり、記入し、本人の思いを知ろうとしている。意思疎通困難な場合は、職員本意にならないように努めて対応している。	
			(外部評価) 入居の際、利用者や家族に思いや意向を聞いている。「私の姿と気持ちシート」に記録することで、利用者の思いを職員間で共有できるよう工夫がされている。日々のかかわりの中でゆっくり声をかけ、表情をうかがいながら思いや意向の把握に努めており、利用者の思いを尊重する姿勢がうかがえる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所前に本人の生活状況を家族に聴いたり、センター方式、ケアマネより情報収集している。自分のこれまでの馴染みの物は自由に持ち込まれている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 個々の生活リズムを把握し、気付きノート、申し送りノートを採用し、健康で安全な生活が出来るように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人、家族に思いや意見を聞いている。定期的にカンファレンスを行い、思いを取り入れている。更新時期には面談を行い、意見を聴き、計画を作成している。	
			(外部評価) 担当者が中心となり、職員で話し合って作成された介護計画を管理者が確認している。毎月モニタリングを行い見直しをしている。利用者と家族の意見や要望を大切にし、介護計画がよりよいものになるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 毎月、計画書に添った介護記録を個別に取り、生活様子、健康状態、本人の言葉、エピソード等を記録している。定期的(3カ月毎・入院時には)介護計画の見直しを行っている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 必要に応じて通院、リハビリ、マッサージ、送迎など柔軟に対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域の区長さん、民生委員、地域のサロンとの交流したり、意見を交換する機会を設けている。地域の図書館で紙芝居や絵本を借りて、読み聞かせなどして楽しんで頂いている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) かかりつけ医はあるが、病状に応じた専門病院を受診 している。また、家族の希望する病院を受診してい る。	
			(外部評価) かかりつけ医や希望する病院に受診ができるよう支援 している。受診には職員が同行するが、必要に応じて 家族にも協力してもらっている。協力医が月1回往診を 行い、利用者の健康管理をしている。必要に応じて看 護師の訪問もあり、利用者への適切な支援が行われて いる。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 協力医療機関の看護師より毎週健康チェックを受け、 必要な注射、血糖測定、点滴を受けている。体調変化 (状態) を伝え、指示を受け対応している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時には病院に情報提供を行っている。面会にも行 き、本人の状態を見て職員に伝えている。退院後、医 療機関での情報提供を行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 契約時に施設の方針を説明し、同意を得ているが、重 度化した場合は、再度本人、家族、医師、看護師、職 員が連携を図り、安心して終末期を迎えられるよう話 し合いを行い取り組んでいる。	
			(外部評価) 終末期の対応については、入居の際に利用者と家族に 説明し意向を聞いている。状態の変化に応じて確認を 取り、利用者や家族の思いを重視している。医療の対 応についても、家族と連携を図りながら慎重に取り組 んでいる。研修等にも参加し知識を高めるよう努力し ている。	新人職員や若い職員が不安をもたないよう、終末期の 支援のあり方や対応方針について、職員で確認し合っ て共有し、よりよいケアが行われることに期待した い。

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 年1回、全職員が救命救急法を受講している。緊急時マニュアル、連絡網を作成し、対応できるようにしている。消防署による応急手当研修会にも参加して、身に付けている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的に防災訓練を実施して、地域の方、消防署、推進員との訓練を行い協力体制を築いている。昼夜を問わず施設内の点検を行っている。全職員で訓練し周知徹底を図っている。 (外部評価) 消防署の協力を得て年2回、避難訓練を行っている。日頃より、防災チェック表を用いて2時間に1回火の元の安全を確認するなど、職員が防火意識を持つように努めている。非常時の食料やテント、コンロ等も常備しており、スプリンクラーも設置している。町内グループホームで協力体制について話し合いがされている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人一人の人格を尊重し、プライドを傷つけないような言葉かけ、対応をしている。理念にある「利用者に笑顔で接し、やさしい声かけで介護をする」という行動目標を念頭に支援している。 (外部評価) 利用者との日常のかかわりの中で、職員は優しい言葉かけを念頭におき対応している。特に排泄や入浴時にはプライバシーに配慮し、一人ひとりの人格を尊重しながらケアに取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者に合わせて声かけをし、無理強いせず自己決定出来るよう、声かけ、支援している。難聴の方はボードを使用し、本人のに決めて頂いている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一日の流れは決まっているが、一人一人の体調に配慮しながら本人の気持ちを尋ねたり、相談しながら過ごして頂いている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 行きつけの美容室に行かれ、パーマや毛染めをされている。行かない方はホームで行っている。洋服は、自分で決められる方は決めて頂いている。たまに化粧され、おしゃれをされる方もある。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 職員と入居者が同じテーブルを囲んで話をしながら食事をしている（介助の方も）。畑で収穫できた野菜を食べたり、誕生日には本人の好きな食事を出している。外食時など好きなメニューを決めて頂いている。出来る方は食事準備、片づけを手伝って頂いている。 (外部評価) 利用者の希望や好みを取り入れた献立にしている。職員と利用者が、同じテーブルを囲んで楽しく食事ができるよう雰囲気づくりを大切にしている。支援の必要な利用者には職員が横にさりげなく座り、優しく声かけしながら介助している。外食をすることもあり利用者は楽しみにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 各自の健康状態を考慮して食事量、薄味（減塩）、刻み食、お粥、トロミ（水分）を使い工夫している。一人一人の摂取量（食事、水分）は、記録している。本人の好きな物、嫌いな物、習慣で摂られていたものを配慮し、個別に対応している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、口腔ケアを行い、本人の能力に応じて介助している。歯間ブラシ、スポンジなど個人に合わせて使用している。週1回ポリデントを使用している。夜間時、義歯は外して休んで頂いている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 日中はトイレに排泄を促す事を基本としている。トイレでの排泄を大切にしながら、紙パンツ、尿取りなど、本人に合わせて使用している。排泄チェック表を利用し尿意のない利用者にも時間をみて誘導する事により、トイレで排泄出来るよう、支援している。夜間時は、必要に応じてポータブル、トイレ誘導、尿取り交換を行っている。 (外部評価) 日中は基本的にトイレで排泄できるよう支援している。利用者の様子から敏感に察知し、さりげなくトイレ誘導を行っている。状態に応じて、排泄の支援方法を家族に相談している。トイレには転倒防止や立ち上がり動作がしやすいように適切な手すりを取り付けられ、安全に配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 自然排泄が出来るように、乳製品、食物繊維の物を摂ったり、体操、腹部マッサージ、散歩を行っている。排泄困難な方は主治医に相談している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 本人の希望を聴き、入浴されている。一人ずつゆっくり入浴されている。仲の良い方で一緒に入浴される事もある。 (外部評価) 決まった入浴日はなく、利用者の希望に応じ毎日入浴できるように支援している。入浴の苦手な利用者には声かけやタイミングを工夫して、楽しく入浴できるように努めている。同性介護に配慮し、心地よい入浴ができるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えている。夜間時、不眠の時は、日中休んで頂くこともあるが、ゆっくり休息が取れるように支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 各自の薬の処方箋があり、関連や副作用を理解している。いつでも職員が確認できるようにしており、病状変化があった場合は、主治医に相談している。薬の変更時は申し送りノートに記入し共有している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一人一人に応じて、趣味活動、料理のお手伝いをして頂いたり、ゲーム、歌を唄ったり、DVD鑑賞して日中楽しく過ごして頂いている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 家族の協力を得て外出される方もある。ドライブ、お花見、外食、買物に行かれている。ボランティアの協力で笹祭り見学に行かれている。	
			(外部評価) 利用者が外出により気分転換できるよう、地域の行事やイベントにできるだけ参加している。利用者の希望を取り入れたドライブや買い物等の外出を支援している。職員の家族がボランティアで外出の手伝いをするがあり、利用者に喜ばれている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ほとんどの方は管理できなくなっているが、管理できる方は自分で所持されている。職員に買物を頼まれたり、買物に行かれ支払される方もある。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 年賀状、暑中見舞いなどを用意し、一言書かれる方もある。出来る方は自分で手紙を書いたり、電話をかけたりされる方もある。(番号は職員が押してあげる)	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 食堂内の壁には季節に応じた飾付けや写真を飾っている。季節の花を飾ることもある。玄関先には、季節の花、野菜を植えたり、花を飾っている。場所が分かるように大きな字で表示をしている。 (外部評価) 落ち着いた雰囲気のあるリビングのソファで、利用者はゆっくり寛ぐことができる。家庭的な温もりを感じる食堂のテーブルには、庭で摘んだ花が飾られている。リビングからキッチンへの動線の設計が工夫されており、利用者は自然な流れで職員の手伝いを行うことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 廊下、玄関先、いろいろな場所に椅子、ソファを置いている。食堂内は少し狭いが、皆が座れるようにソファを置いており、お話しできるように配慮している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室には馴染みの家具、テレビ、ラジオ、コタツ、タンスを持ちこまれている方もある。花を活けたり、観葉植物を置かれ、お世話されている。家族の写真を飾られていたり、家族が身近に感じられるようにされている。 (外部評価) 居室には、ベッドやエアコン、洗面台が設置されている。使い慣れた馴染みのものが持ち込まれ、家族との思い出の写真や花が飾られており、利用者が落ち着いて生活できる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 各自に応じて、老人車、杖、車椅子、歩行器を使用されている。身体状況に応じて、ベッドの向きやポータの設置場所を考えている。転倒防止のため、床で休んで頂く方もある。2階への移動はエレベータを使用されている。自力で移動できるよう、段差をなくし、手すりを設置している。食堂内の移動も物をつたいながら移動してもらっている。	